

さ ざ ん か

第93号、2009年8月

暑い日が続いております。みなさま、体調管理は十分に行っていますか。取りあえずは十分な水分摂取と睡眠。これに尽きますね、夏は。

終戦後64回目の夏。64年。すごいですね。半世紀どころではない。終戦記念日に考えたこと。戦争はすべきだ、と思っている人は一人もいないでしょうけど、いや、一人二人はいるかもしれないけど、戦争をやらざるを得ない時代とか、状況もありうる、という前提は必要なのだと思うのです。しかし、新聞、テレビなどのマスコミ上では、どうも終戦記念日近くなると何が何でもどんな戦争でも反対、という論調と云うか絶対平和主義的な雰囲気の色濃くでてくるような気がします。

人間、誰しも平和が良いに決まっています。誰も好き好んで戦争はしないでしょう。(一般人の話。武器商人とか言われる一部の人は別ですよ) しかしながら、勝手に日本人を何十人も拉致し殺害した国が近くにあるとき、彼らに戦争はやめようよ、みんなで仲良くしようよ、という呼びかけが通用すると思っている事自体が信じられません。非武装中立と云っている人達は、単に政治的スローガン、パフォーマンスではなく本気でそういういき方が可能である信じているのでしょうか。日常でも暴力団の暴力からわれわれは守ってくれるのは警察のチカラ(暴力)なのです。国単位での武装も当然必要です。ヤクザに仲良くしようよといって、そうだね、人間暴力はいけないからね、と云って暴力を止めてくれるヤクザがいるとでも思っているのでしょうか。どんな人間にだって誠心誠意訴えればきっと分かってくれるはずだ、本気で思っているのでしょうか。

人それぞれの立場はあるでしょう。戦前の日本のほうが良かったと思う人はおそらく少数派かもしれません。戦後も多くの誤りはありながらも、平和に60年以上過ごすことができました。ただ、これまで平和であったから、今後も平和であるとは限らないし、いつまでも外国が食糧を日本に売り続けてくれるかも分からない。終戦前後の食糧難にあえずニッポン人の映像をみたとき、とりあえず今のニッポンでは食糧確保がもっとも最優先されるべきだ、などと戦争是非論からとんでもない方向に思いが行った8月15日の終戦記念日でした。食糧生産業(農業や畜産業)が繁栄する日は、いつこのニッポンに来るのでしょうか。世界で一番美しいニッポン列島。自ら壊すのは止めたいものですね。

病院からのお知らせ

- * 新型インフルエンザが猛威をふるいつつあります。手洗い励行はそのまま続けましょう。発熱して心配な方は、早めに受診してください。考えようによっては、早めにかかって早めに新型インフルエンザに対する免疫をつける、というのも逆説的には良いのかもしれませんが。
- * 神経内科外来は火曜日が鹿児島大学からの神経内科専門医が担当し、それ以外の曜日は高橋先生の担当になります。
- * 毎月第3金曜日の血液外来は前院長の野村紘一郎先生の担当になります。その他肝臓病外来（4月から月2回に増えます）、糖尿病外来（月、金：福重先生）の専門外来も開設しております。
- * 脳神経外科外来について：4月からはやむなき事情により週1回金曜日になっております。担当医師などの詳細は脳神経外科外来でお尋ね下さい。
- * 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてはいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- * MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることもあるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- * MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- * 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。
- * 「さざんか」への投稿をお待ちしております。苦言、提言、自作の詩歌、エッセイ、家族自慢なんでも構いません。記念もかねて一度投稿してみてもはいかがでしょうか。原稿料はありませんので、ねんのため。勿論、掲載料もありません。

短歌

瀬戸好子

ゆずらざる夫の狭量 ストレスのたまる明暮れ 我も老いたり

梅雨晴れの 谷間の空に 突き刺さる 杉の穂先は 緑をまして

俳句

西屋敷喜美子

水中花 一人静かに 逝く女優

髪洗ふ 二人の姉を 思いけり

真夏日や 人影無きし 屋下がり

今日の1日を楽しく

別府政隆

始良郡との境界に矢上連山がある。そこから見下ろすと、80 数戸の集落が点散する。夏は特に静かで虫の鳴き声だけが聞こえる。

山合いには、住民を支える谷間に緑の田園が広がっている処で、半世紀前はこの集落も130数戸で活気がみなぎっていたものです。男も女も、子供達も皆んな一丸となってお互いに助け合って生きて来たものです。それが今日では、少子、高齢化の進むなかで、1日を過ごすことが精一杯である。また、一人暮らしの中高年の未婚者も少なくない。農業一筋で生活してきた父、母達、7～10人の子供を育て、生計を立てていた懐かしい思い出だが、鮮明に覚えています。

併し、現在少子化は勿論、一人もいない学年、いわゆる複式学年もある様で驚いている。私たち高齢者にとっても、この集落でも65歳以上が約半数を占めているのです。これらを考えて見る時、自分達で出来る事は自分達やる事です。子や孫達はあてにならない。現在、妻と2人年金暮らしである。田4アール、畑は菜園程度で0.5アール耕作している。今年も稲の生育もやや順調と云った処。今後が楽しみである。また畑は野菜数種類を栽培、これも妻と2人で手入れに行くのが楽しみである。自分で栽培した野菜は格別に味がある。時に友人との交換も気持ちが良い。

暇な時は友人宅を訪れ、ボランティアで農作業、又庭の草取り、庭木の剪定等、お互いに会話もはずみ、1日を楽しく過ごしています。3年前に70歳を迎えた現在、自分の体調に合わせ無理しない、楽しみ乍らの農作業に生き甲斐を感じています。老人会も出来る丈出席し、人の話を聞く。グランドゴルフにも参加、集いの場が私にとっては生き甲斐でもある。人との交流、会話こそが私達夫婦の支えでもあるのです。時に想う、子供や孫達からの連絡。遊びに来る日が待ち遠しい。

祝 超高齢化社会 カラーマン (とその女)

昔は、いや、今でもそういう気持ちは強いが、「ああ、仕事なんかせずに遊んで暮らしたいなあ」「勉強せずに暮らしていける世界はないのだろうか」などと思ったりしたものだ。学生の夢見たいな「勉強せずに毎日過ごすこと」は社会人になると簡単に達成できた。だけど、「勉強」のかわりに「仕事」が置き換わっただけで、こんなことならまだ学生時代の「勉強」の方が良かったともおもう。社会人になってからは「仕事もせずに暮らしたい」のが夢であるが、なかなか仕事をせずに暮らしていくことは難しい。
(働かざるもの食うべからず、というのはまあ社会の基本ですからねえ。)

日々の生活のためにはどうしてもお金が必要だし、お金を得るには仕事をしなければならない。当然のことだ。生きていくことは厳しいものだ。労働をしてその対価としてお金を貰う、つまり労働そのものが商品ではあるが、一つ一つの労働の質と金額との関係はそこそこの対応があるような、ないような。

同じ消費カロリーの労働でも、医者や弁護士とコンビニのバイトでは時給に相当の開きがあるだろう。なぜ差があるのか。一言で言えば希少価値ということか。ダイヤモンドは希少だから高いのであり、その辺の裏庭で取れるとすれば今と全く同じ品質のダイヤモンドだとしても二束三文であろう。つまり、ダイヤモンドそのものというより、ダイヤモンドの希少さに価値があるのだ。

一方、労働の面で考えると、医師とか弁護士になるのに、それなりの学歴や投資が必要であり、それが可能な少数のものしか資格が取れないという希少価値から、時給が高いのだと思う。(でも、あなたは稀に見るアホだけど、いくらそのことが希少だからと云ってあなたの価値が上がるわけではないのねえ。なんか、惜しいなあ)

高卒の資格で誰にでも希望者に医師や弁護士の資格を与えるとすればその制度そのものが崩壊してしまうであろう。誰にでも与えられないからその価値があるのである。

すべからく、国家資格とはそういうものか。看護師、税理士、教師など、ある程度の価

値付けをするために資格を与える仕組みを作り、現実的にはその資格を得たものが同じ消費カロリー（労働時間）でも高い時給を貰えるということなのだろう。

（資格って大事よねえ。あたしのお友達の看護師さんはあたしの何倍も給料もらっているわ。もちろん、ナースのお仕事ってたいへんらしいけど。運動能力とか賢さはあたしとかわからないし、あたしのほうが可愛いだけだね、まあ、仕方ないわね、それが資格だから）

ハイリスクハイリターンということだろう。リスクとはいえないかもしれないが、それなりの投資をしたもの（受験勉強をし、試験に合格し、学費を払い、何年間の時間を費やす）が、それなりのリターン（報酬、つまりより高給の職業とかより安定した職業）をえるのが一般社会の仕組みなのである。

資本主義だけでなく、おそらく社会主義でも資格とそれに見合う待遇と云う意味では一緒であったろう。共産党員の子弟というだけで、幸福が約束されているという現代中国や、資産家の子供というだけでそういう資格を取る必要もない資本主義国家の一部の恵まれた人々を除いて、大多数の社会では、生きるためには仕事が必要であり、より良い仕事に就くために学生時代から努力をするというのが一般的であろう。

資産とか資本とか持たない人々が、生きていくにはお金が必要であり、お金を得るには働かなければならないのである。人間が集団となって社会を作って以来、ちょっとしたカタチは違ってても基本はそういうことなのであろう。どういうことかって？「働かなければ食っていけない」ということだ。

それを思うと、リタイアした高齢者の境遇は天国のようだ。なにしろ、働かなくても食っていけるのだから。あーあ、毎日遊んで暮らしたい！という願望が実現してるのである。

今の若い者が今の俺達ほどの年金をもらえようがもらえまいが、社会保険庁がどれほどズサンで将来に禍根を残そうが、今の俺達には関係ないもんね。団塊の世代をみよ。北海道の夏山で遭難するのも、飛行機や豪華客船で皆既日食を見に行くのも年寄りばかりだぞ。だって、お金をもっていて、しかも働かなくていいし、毎日遊んで暮らしていけるのだから。（惜しむらくはそういう境遇が若いときにあればさらに楽しいのに、と思うけどそれが時間とお金のパラドックスってことかしらね。）

それにしても、なんという良い社会であろうか。高齢者が他の世代より幸せになっているニッポン社会は素晴らしい社会ではないか。ふふん。働かなくてもいいもんね。ペンキョーしなくてもいいもんね！という得意顔のじっちゃん、ばっちゃんの態度が好ましい社

会は幸せな社会なのである。

年寄り早く死んだ方が世のため、家族のためなどといかにもマゾ的なことばかり言う年寄りが多いと世の中もうっとおしくなってしまう。年寄りはもっと働け、とかいう総理大臣を要する政党ではもうだめだろう。

幸せな高齢化社会は、われわれの目標なのである。みんな年をとっていく。いつか高齢者になる。その時に待っている社会は楽しい社会であって欲しい。そのためにも若いときに多少の税金も払おう、年金もちゃんと払おうぞ。終わり良ければすべて良し。今よりももっともっと楽しい超高齢化社会になって欲しいと思う。

(だけどねえ、中に居るのよねえ。税金も年金の掛け金も払わないで、年取ってから年金だけはしっかり貰おうと考えているずるい人が。そういう人に限って、基本的人権とか文化的生活を営む権利とか、大声で言ったりするのよねえ。なーんか、許せないわあ。障害者の人とか思わぬ病気をした人とかは、救済してあげたいけど、ただ乗りをする人はアタシは許せないなあ。因果応報ってことはあるんだわ。ありとキリギリス。確信犯のキリギリスが多くなっているのがなんか悔しいなあ・・・)

花のように

何も持っていないのが	一番いい
ねられる心配もなし	焼かれる不安もない
無一物だから	無尽蔵なのだ

一切皆空	咲いて散りゆく
花のようにあれ	

編集後記

年はとりたくない。でも間違いなく日々年をとっていく。いやだなあ、と思い心底憎むがそれでも容赦なく年取っていく。ならば、せめて、年とったことを楽しめば良い、と思うが、そうそう楽しめるはずもない。年取った知恵を社会に還元すればよい、と思うがそうそう知恵もない。若い人と交流すれば、若くなるわよといわれても、余計自分の年を意識するだけである。ああ、いやだ、いやだ。絶対に年取りたくない。といっても、年をとっていきますので、やはり超高齢化社会を楽しもうと居直らなければならないのでしょう。

多分、その保障と云うか基本はお金がとても大事だということだと思います。みなさん、老後に備えてせつせとお金を溜めておきましょう。もちろん、日々食っていくだけのお金で十分ではありますが。(KT)